

1 次の文を読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

井上ひさしさんの名作 ⁽⁷⁾『ギキョク』『イーハトーボの劇列車』（新潮文庫、一九八八年）の中で、宮沢賢治が語る以下のような台詞 ^{せりふ}がある。

……東北の、いや日本の村さ「**A** 広場」なんて、今まであったが。村には一本道が通って居 ^ゐるだけだべ。「広場」があつたら、たとえば百姓一揆はずいぶん成功したと思うす。一本道しか無 ^ながったがら、常時、百姓ははさみ撃ちばされで……。

日本にはもともと他者が出会う場所、広場がなかった。かろうじて、^(注1)若衆 ^{わかしゅ}宿や ^(注2)鎮守の森が共同体内部の出会いの場を ⁽¹⁾ホシヨウした。しかし、いまやそれらも減びようとしているのだ。私たちは、効率を求め、物質的な豊かさを求めてきたことと引き替えに、豊かで繊細なコミュニケーションの場を失ってしまったのだ。

しかし、「それならば経済活動 ⁽²⁾を ⁽³⁾テイタイさせて過去に戻ろう」というのでは **B** 能 ^よがない。現代社会を生きる私たちは、やはり ⁽⁴⁾人 ^{ひと}為 ^{ため}的に「新しい広場」を作っていく必要があるだろう。劇場、美術館、音楽ホールといった施設は、まさにそのような現代の広場なのだ。

しかし残念ながら、日本の多くの公立ホールは出会いの場所とはなっていない。地方都市の郊外に建つ立派な公立ホールに、深夜に出かけてみるといい、ホールの周りの ⁽⁵⁾壁 ^{かべ}際 ^{ぎわい}で熱心にストリートダンスの練習をする若者たちの姿を見ることができはるはずだ。

地方都市には、ダンスの練習ができるほどの鏡張りの大きな建物はそうないし、商店街などで練習をしても、近隣住民から迷惑がられて追い出されてしまう。 **C** 、郊外の公立ホールの周り（そこはたいていが ^(注3)回廊 ^{かいろう}のようになっていて、屋根付き、建物はガラス張りで、深夜のダンスの練習には打ってつけだ）で、連夜、ストリートダンスの練習がおこなわれる。この若者たちの姿こそが、現在の地方自治体における文化行政

の在り方を象徴している。

公立ホールは、本来、地域の住民が演劇やダンスの創作に参加する場として作られたものではなかったのか。だが、深夜、建物の周りに集う若者たちは、けっしてホールの中に入ることはない。建物の中の行政官たちは、彼らを受け入れないままに施設利用 ⁽⁶⁾稼働 ^{さくどう}率の低さを嘆いている。いや、それどころか、ストリートダンスを芸術とは認めずに、どうにかして会館の周辺から彼らを閉め出そうとする職員さえいる。地域にとって、これほ

どの不幸があるだろうか。

まだ税金も払っていない、選挙権ももたない「明日の市民たち」の声を汲み上げて街を活性化させる智慧を、地域行政はまだもつに至っていない。だがしかし、利権でがんじがらめになった道路や橋やダムを造ることよりは、劇場や音楽ホールや美術館の中にその智慧のヒントがあることだけは確かなことだろう。そのヒントは、若い、明日の住民たちが与えてく^Dれるはずなのだ。彼らを、どうやって公立ホールの中に招き入れるか。まずそこから地域の芸術文化行政は出発しなければならない。

ここで一つだけ注釈を加えておく。いま私は「公立ホール」と書いてきたが、これを我が国では一般に「公共ホール」などと呼んでいる。しかし私は、公立であることと、その建物が現時点で公共性をもっていることとは必ずしも一致しないと考えている。そして現に、日本の各地に、いまだに建ち続ける^E公立の文化会館は、「公共」の名に値しない建築物である場合が多々あるので、私はこれを公立ホール、あるいは公立の会館と呼んでいる。

似たような事柄だが、そういった施設の大半は劇場と呼ぶに^④値しない多目的のホールなので、その似非^{えせ}劇場空間を「公立ホール」と呼んでいる。さらにその「公立ホール」を含む建物全体を、「公立の（文化）会館」と呼んでいるわけだ。

私たちが目指す広場としての劇場は、この対極にある。公設か私設か、官営か民営かにかかわらず、人との出会いを約束する開かれた芸術空間のみを、私たちは公共の場としての「劇場」と呼ぶ。

私は三年ほど前、旧自治省の外郭団体である財団法人地域創造（主に地方自治体の文化活動を支援するために設立された財団なのだが、日本では文部省、文化庁^Iカンカツの財団以外には「文化」という名前は付けられない習慣になっているらしい）で、ある研究部会に所属していた。その年のテーマは、「市民参加型演劇の功罪」というものだった。

市民からの公募でキャストを決める参加型のオペラ、ミュージカル、演劇などが近年、各地で盛んになっている。その中には、藤沢市の市民オペラのように、プロ顔負けの水準と広がりをもった成功例も少なくはない。しかし、一方で^{（注4）}粗製^{そせい}濫造^{らんぞう}の感を免れないものが多数を占めることも事実である。ではいったい市民参加型の舞台はどうあるべきなのか、を討議するのがこの研究会の目的だった。

研究会では全国から百五十件ほどの事例を調査し、必要などころはさらにヒアリング（聞き取り調査）などをおこなって検討材料とした。

まず第一に、私の印象に残ったのは、ほとんどすべての公立ホールの担当官が、調査票やヒアリングで、まさに^F判^おで捺したように「イベント型

にはしたくない」と答えていることだった。しかし一方で、私たち芸術家サイドから見ると、それらのほとんどは、イベントと呼ぶしかないものだった。

いったいこの乖離はどこから来るのだろうかと私は考えた。そして、どうも行政官の話を聞いていると、「イベント」という言葉に対するイメージ自体が、私たち芸術家のそれと大きくずれていることが分かってきた。

G 公立ホールの職員など担当の行政官たちは、市民参加型の舞台制作が、一回で終わるとイベントであり、継続されればイベントではないと考えていたようだ。しかし、私たち芸術家サイドからすれば、予算が付いているから毎年やりましょうというのは、まさに「イベント」にほかならない。ここに、一つの大きな断絶があった。

いま文化行政では、「継続性」ということがさかんにいわれている。たしかにこれまで打ち上げ花火型の企画が多かったことから来る反動なのだろう。だが、芸術としての継続性とは行事の継続のことではない。継続されるべきはその精神であり、蓄積されるべきはその技術である。毎年おこなわれる行事でも、なんの蓄積も精神的な継続性もないものでは、芸術的には意味がない。

行政官と私たちとの「イベント」という言葉をめぐる乖離と、その原因については分かった。そして、私は素直に、「イベントでもいいのではないか」とまず思った。H いま、地域の共同体は、新しい祭り(＝イベント)を必要としているのだ。

どの地域にもある新住民と旧住民の対立(それは対立という形で表面化していないものでも、そのケ ユウワは大きな課題となっている)、地域に対する帰属意識の低下、そういった新しいコミュニティの問題を解決するには、地域に一体感を与える「祭り」が必要不可欠だ。

だが従来の祭りでは、宗教色が強く、それを直接行政が支援することはできない。だからこそ、地域は新しい形の祭りを求めるのだ。高知の「よさこい鳴子踊り」や、札幌の「YOSAKOIソーラン祭り」、あるいは函館の野外劇などは、まさにその成功例だろう。市民参加型のオペラやミュージカルも、その少し「^④高尚なもの」だととらえればいい。祭りを通じて、ある種の精神の高揚と、地域の一体感を得られるのならば、それはそれで素晴らしいことだろう。決まり文句のように、「イベント型にしたくない」と言う必要はどこにもない。

調査結果の中で成功例を見ると、まずこういったイベントに徹したものがあげられた。中途半端に芸術性を追求するのではなく、お祭り騒ぎに徹することで企画を成功させた例がいくつかあった。それはけっして恥じることもなんでもないだろうと私は感じた。

(平田 オリザ『芸術立国論』による。ただし、本文の一部を改変した。)

(注) 1 若衆宿……村落の若者が夜集まって手仕事をしたり話し合ったりして寝泊りする特定の家のこと。

2 鎮守の森……神社の参道や拝殿などを取り囲むようにして存在する森のこと。

3 回廊……建物などの周囲に巡らされた、長くて屈折した屋根付きの廊下のこと。

4 粗製濫造……いい加減な作り方の質の悪い製品を、むやみやたらに数多く作ること。

問1 傍線部(ア)～(オ)のカタカナに相当する漢字を楷書で丁寧に書きなさい。

(ア) ギキョク (イ) ホシヨウ (ウ) テイタイ (エ) カンカツ (オ) ユウワ

問2 傍線部(ア)～(オ)の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

(ア) 人為 (イ) 壁際 (ウ) 稼働 (エ) 値 (オ) 高尚

問3 傍線部A「広場」について、本文中ではこれがどのような場であるのか大きく二通りの言い方で表現されている。それぞれ最も端的に表現されている箇所を本文中から**五字**、**十一字**で抜き出さない。

問4 傍線部B「能がない」の本文中での意味として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 才能がない。
- ② 仕方がない。
- ③ 考えが足りない。
- ④ つまらない。
- ⑤ 意味がない。

問5 空欄Cに入れるのに最も適切な語を、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① あるいは
- ② とはいえ
- ③ いずれにせよ
- ④ なぜならば
- ⑤ そこで

問 6 傍線部 D 「れる」と文法的に同じ意味を持つ「れる」を、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 先生が授業をされる。
- ② 満員電車で足を踏まれる。
- ③ 家から富士山が見られる。
- ④ 客を玄関へと招き入れる。
- ⑤ 対策が急がれる。

問 7 傍線部 E 「公立の文化会館は、「公共」の名に値しない建築物である場合が多々ある」とあるが、では、筆者によると、どのような建築物が「公共」の名に値するということになるか。本文中の言葉を用いて四十文字以内で答えなさい。

問 8 傍線部 F 「判で捺したように」を別の言い方で表現している箇所を、本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問 9 傍線部 G 「公立ホールの職員など担当の行政官たちは、市民参加型の舞台制作が、一回で終わるとイベントであり、継続されればイベントではないと考えていだようだ。しかし、私たち芸術家サイドからすれば、予算が付いているから毎年やりましようというのは、まさに「イベント」にほかならない」とあるが、芸術家にとって市民参加型の舞台制作が継続された「イベント」ではなく、「芸術的に意味のあるもの」にするには何が必要であると筆者は考えているか。本文中の言葉を用いて十五文字以内で答えなさい。

問 10

傍線部H「地域の共同体は、新しい祭り（＝イベント）を必要としているのだ」とあるが、筆者はなぜこのように主張しているか。その理由を本文中の言葉を用いて一一〇字以内で答えなさい。

問 11

本文の内容と合致しないものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 郊外の公立ホールの多くは、周りでストリートダンスの練習をする若者たちを取り入れていないなど、本来の目的が果たせていない。
- ② 地域の芸術文化行政は、若者たちの声を汲み上げて街を活性化させるべく、まずは公立ホールの中に彼らを招き入れる必要がある。
- ③ 日本の公共施設は、「劇場」と名が付いていても実際には劇場と呼ぶに値しない「多目的のホール」であるものが大半となっている。
- ④ 行政官と筆者ら芸術家とは、どのようなかということに対する考え方に大きな隔たりが見られる。
- ⑤ 市民参加型の舞台は、地域の共同体活性化という点からすると、まずは芸術性は抜きにしてお祭り騒ぎに徹するので問題ない。

2 次の文を読んで、後の問い（問1～問3）に答えなさい。

A ずつと使ってきたのにひどいじゃないですか。句点に言葉が話せたら、そう訴えるかもしれない。若者世代はSNSのメッセージで句点を「冷たい」と感じるという。「大丈夫です。」のように付けると「マルハラスメント」だとネットで話題になっていた。

筆者は50代だが、スマホの履歴を確かめたら若者あてでも普通に句点を付けていた。相手の文には一切ない。これが世代間ギャップかとショックを受けた。日本だけの現象なのか気になったので、欧州や東南アジア、南米の知人に聞いてみた。

どうやら「句点なし」は、他言語圏にも共通する傾向のようだ。20代の英国人女性には「メッセージの吹き出しには必要ない。送信ボタンを押すのが句点の代わりだ」と話す。冷たい、権威的、機嫌が悪いなどの印象は日本と同じ。文末は句点なしが、ダッシュ（—）が多いという。

感嘆符（！）の文末も20代の彼女には好印象だが、10代には圧を感じて不評だとか。改まったメールや上司から来たメッセージの返事には「真剣さや正式な感じを出すため」に句点を付けるそうだ。

大類雅敏著『句読点おもしろ事典』に、いまから半世紀ほど前の興味深い話があった。高名な国語学者が、目上の人への手紙で句読点を使うと失礼になると説いた。読みやすいようにと指示する行為だからだ。

礼儀だとか失礼だとか、（注1） 毀誉褒貶（きよほうへん）にさらされる句点が気の毒になった。日々世話になっている身としては、これまで通りに使っていこうと思う。以上。

（二〇二四年二月十六日 朝日新聞朝刊「天声人語」による。）

（注） 1 毀誉褒貶……ほめたり、けなしたりすること。ほめことばと悪口。

承諾番号・25-0349
朝日新聞社に無断で転載することを禁じる

問1 傍線部A「ずつと使ってきたのにひどいじゃないですか。句点に言葉が話せたら、そう訴えるかもしれない」とあるが、句点にとってはどういうようなことが「ひどい」ことになるのか。本文中の言葉を用いて三十五字以内で答えなさい。

問2 本文の内容と一致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、番号で答えなさい。

- ① 「マルハラスメント」という言葉は社会的に認知され、広く使用されるようになってきた。
- ② 若者が「句点をつけない」という傾向は、日本のみならず、海外においても同様に見られる。
- ③ 英国では感嘆符の文末は、20代以降には好印象であるが、10代には威圧感があり不評である。
- ④ 半世紀ほど前の高名な国語学者が、目上の人への手紙で句読点を使わないと失礼に当たると説いていた。
- ⑤ 筆者は句点がけなされていることを気の毒に思い、印象良くしようと、今後也使っていくことに決めた。

問3 本文を読んだ上で、SNSのメッセージやメールで句点を用いることに対するあなたの考えを200字以内で述べなさい。二段落以上の構成とし、第一段落ではあなたの考えを述べ、第二段落以降ではそのように考える理由を述べなさい。